

大牟田の希少生物リスト

希少生物リスト（植物）

科 名	種 名（和 名）	環境省	福岡県
種子植物 (17 科 21 種)			
双子葉類 離弁花類 (6 科 6 種)			
ユキノシタ科（アジサイ科）	バイカウツギ	なし	準絶滅危惧
アブラナ科	コイヌガラシ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
イソマツ科	ハマサジ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
タデ科	コギシギシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ナデシコ科	ウシオツメクサ	なし	絶滅危惧ⅠＡ類
マメ科	シバハギ	なし	絶滅危惧ⅠＢ類
双子葉類 合弁花類 (7 科 10 種)			
アカネ科	ヒロハコンロンカ	なし	絶滅危惧ⅠＢ類
ゴマノハグサ科	ゴマノハグサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	トラノオスズカケ	なし	絶滅危惧ⅠＡ類
	ヒキヨモギ	なし	絶滅危惧ⅠＢ類
ヤブコウジ科（サクラソウ科）	カラタチバナ	なし	絶滅危惧ⅠＢ類
シソ科	ミゾコウジュ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
ナス科	イガホオズキ	なし	絶滅危惧ⅠＢ類
ヒルガオ科	アオイゴケ	なし	準絶滅危惧
リンドウ科	イヌセンブリ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠＢ類
	リンドウ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
単子葉類 (4 科 5 種)			
カヤツリグサ科	シンジュガヤ	なし	絶滅危惧ⅠＢ類
トチカガミ科	ミズオオバコ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠＢ類
ヒルムシロ科（イトクズモ科）	カワツルモ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠＢ類
ユリ科	アマナ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
	ノヒメユリ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧ⅠＢ類

シダ植物 (3 科 3 種)			
ホウライシダ科	ミズワラビ	なし	絶滅危惧ⅠＢ類
マツバラン科	マツバラン	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠＢ類
イワデンダ科（メシダ科）	コクモウクジャク	なし	絶滅危惧ⅠＡ類

主な希少野生生物（植物）

和 名	種 類
 コクモウクジャク	県：絶滅危惧ⅠＡ類 １ヶ所の生育地に約 10 株が生育していた。しかし、生育地の森林が伐採され、2001 年版の調査では確認できなかった。今回の見直し（2011 年版）では、生育地を調査していない。 危機要因：産地極限、森林伐採 種の概要：常緑林やスギ植林の林床に生える多年草。 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-）
 ミズオオバコ	県：絶滅危惧ⅠＢ類 国：絶滅危惧Ⅱ類 山間部のため池など限られた水域に生息している。沈水生の一年草。葉は質が薄く、赤みを帯びた薄緑色。水深によりサイズと葉の形は大きく変化する。花期は 8～10 月。花は白～桃色。両性花。まれに単性花もある。 （出典：福岡県レッドデータブック 2001-） 危機要因：乾田化、農薬使用、管理放棄 種の概要：一年生の沈水植物 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-）
 トラノオスズカケ	県：絶滅危惧ⅠＡ類 北九州市八幡西区、八女市（旧立花町）の 2 ヶ所で再確認され、その他は不明である。自生地が開発されることが減少の要因となる。また、林下、林縁の道路沿いに自生しているので、草刈りの際刈り取られる恐れがある。 危機要因：森林伐採 種の概要：茎の長さ 70～150cm の地面を這うつる性の多年草。 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-）



カラタチバナ

県：絶滅危惧ⅠＢ類

『福岡県植物誌』（1975）ではやや稀少と記録されている。個体数が減少傾向にあると考えられる。

危機要因：森林伐採、遷移進行

種の概要：暖温帯林に生える常緑低木

（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-）



シバハギ

県：絶滅危惧ⅠＢ類

『福岡県植物目録』（1952）では「やや普通」、『福岡県植物誌』（1975）では「やや稀」とされているが、現在では稀な植物となっている。里山の草地在減少したことに伴い、減少した。

危機要因：遷移進行

種の概要：草地に生える多年草

（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-）



シンジュガヤ（写真出展 Wikipedia）

県：絶滅危惧ⅠＢ類

宗像市、篠栗町、久留米市、広川町、大牟田市、築上町（旧椎田町）に7ヶ所の標本産地があるが、現存するのは2ヶ所だけで、埋立や植生遷移で消滅した所が2ヶ所あり、3ヶ所では現状不明である。

危機要因：植生変化、土地造成

種の概要：日当たりの良い湿った草地に生育する多年草。太くて長い地下茎がある。

（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-）

希少生物リスト（昆虫類・クモ類）

科 名	種 名（和 名）	環境省	福岡県
昆虫類 (4 目 17 科 31 種)			
カメムシ目 (3 科 3 種)			
カメムシ科	コオイムシ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
セミ科	ハルゼミ	なし	準絶滅危惧
タイコウチ科	ミズカマキリ	なし	準絶滅危惧
コウチュウ目 (5 科 8 種)			
オサムシ科	マイマイカブリ	なし	準絶滅危惧
カミキリムシ科	トラフカミキリ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
ゲンゴロウ科	コガタノゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
コガネムシ科	アカマダラコガネ	情報不足	絶滅危惧ⅠＢ類
	コカブトムシ	なし	準絶滅危惧
	ミツノエンマコガネ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
ホタル科	ヘイケボタル	なし	準絶滅危惧
	オオオバボタル	なし	準絶滅危惧
チョウ目 (5 科 12 種)			
シジミチョウ科	クロシジミ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧Ⅱ類
	コツバメ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
	ミズイロオナガシジミ	なし	準絶滅危惧
シロチョウ科	ツマグロキチョウ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧Ⅱ類
セセリチョウ科	ヒメキマダラセセリ	なし	準絶滅危惧
	ミヤマセセリ	なし	準絶滅危惧
タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠＢ類
	ウラナミジャノメ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ウラギンヒョウモン	なし	準絶滅危惧
	ヒオドシチョウ	なし	準絶滅危惧
	メスグロヒョウモン	なし	準絶滅危惧
ミノガ科	オオミノガ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
トンボ目 (4 科 8 種)			
アオイトトンボ科	オツネトンボ	なし	準絶滅危惧
	コバネアオイトトンボ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧ⅠＡ類
イトトンボ科	キイトトンボ	なし	準絶滅危惧
	コフキヒメイトトンボ	なし	準絶滅危惧
	ベニイトトンボ	準絶滅危惧	なし
サナエトンボ科	アオサナエ	なし	準絶滅危惧
	キイロサナエ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
トンボ科	ベッコウトンボ	絶滅危惧ⅠＡ類	絶滅危惧ⅠＡ類

科 名	種 名 (和 名)	環境省	福岡県
クモ形類 (1 目 2 科 2 種)			
クモ目 (2 科 2 種)			
トタテグモ科	キノボリトタテグモ	準絶滅危惧	情報不足
ハラフシグモ科	キムラグモ	絶滅危惧Ⅱ類	なし

主な希少野生生物 (昆虫類・クモ類)

和 名	種 類
 ツマグロキチョウ	県：絶滅危惧Ⅱ類 国：絶滅危惧ⅠＢ類 1902 年に北九州で採集された記録が本県最初の記録である。1950～70 年代は県内全域で普通にみられた。しかし、1980 年代から明らかに減少しはじめ、90 年代には正式の記録が急減した。食餌植物であるカワラケツメイの壊滅的減少と本種の衰亡は連動していると考えられる。福岡市、北九州市、およびその近郊から久留米市、英彦山、八女市矢部村など県内全域から記録があるが、いずれの地でも発生地は縮小、スポット状化、あるいは消滅がみられる。 (出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-)
 オオミノガ	県：絶滅危惧Ⅱ類 幼虫が各種樹木の葉を摂食する多食性で、鳥などの天敵が少ない市街地や村落などに 1955 年までは極めて普通で、冬季の枯れ枝先の休眠幼虫は冬の風物詩とまでいわれた。しかし、1955 年に日本各地で確認された外来種と思われるオオミノガヤドリバエの寄生によって関東北部、四国南部を除いてほとんど絶滅状態になった。しかし、両種の特異な分散、寄主探索能力、寄生関係によって現在でも本種のごく少数の集団が県内各地で時折観察され、完全な絶滅には至らない。 (出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-)



コガタノゲンゴロウ

国：絶滅危惧Ⅱ類 県：絶滅危惧Ⅱ類

体長 24～29mm。背面は緑色がかった褐色で、上翅は黄色く縁取られる。平地の水生植物の豊富な浅い止水域を好む。

県内では広い地域にわたって記録があるが、1960 年代以降に急激に採集量例が減少した。しかし、2000 年代後半より新たな生息記録が出始めているが、前回評価時（2001 年）と比較して状況が改善されているとはいえないため、ランク変更なしとした。

（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2 0 1 4 -）



キムラグモ

国：絶滅危惧Ⅱ類

腹部に体節の跡がある最も原始的なクモ。崖地に横、又は斜めに深さ 5～15cm の穴を掘り、入口に片開きの扉を付けた住居を作る。住居は入口付近だけが糸で裏打ちされている。崖地だけでなく、縁側の下、神社・寺院の床下、森林内の林床にも生息する。

（出典：ネイチャーガイド日本のクモ新海栄一 著）

希少生物リスト（鳥類）

科 名	種 名（和 名）	環境省	福岡県
鳥類 (13 目 21 科 35 種)			
カイツブリ目 (1 科 1 種)			
カイツブリ科	カンムリカイツブリ	なし	準絶滅危惧
カモ目 (1 科 2 種)			
カモ科	オンドリ	情報不足	準絶滅危惧
	ツクシガモ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
キジ目 (1 科 1 種)			
キジ科	ヤマドリ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
コウノトリ目 (1 科 1 種)			
トキ科	クロツラヘラサギ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧ⅠＢ類
スズメ目 (4 科 4 種)			
カササギヒタキ科	サンコウチョウ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
サンショウクイ科	サンショウクイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠＡ類
ヒタキ科	オオルリ	なし	準絶滅危惧
モズ科	アカモズ	絶滅危惧ⅠＢ類	なし
タカ目 (2 科 8 種)			
タカ科	オオタカ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	サンバ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	チュウヒ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧ⅠＡ類
	ツミ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
	ノスリ	なし	準絶滅危惧
	ハイタカ	準絶滅危惧	なし
	ミサゴ	準絶滅危惧	なし
ハヤブサ科	ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ヨタカ目 (1 科 1 種)			
ヨタカ科	ヨタカ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠＢ類
チドリ目 (5 科 11 種)			
カモメ科	コアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ズグロカモメ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ベニアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠＢ類
シギ科	アカアシシギ	絶滅危惧Ⅱ類	なし
	ウズラシギ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
	タカブシギ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ハマシギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧

タマシギ科	タマシギ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
ツバメチドリ科	ツバメチドリ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
チドリ科	シロチドリ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	タゲリ	なし	準絶滅危惧
ツル目 (1科1種)			
クイナ科	ヒクイナ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
ハト目 (1科1種)			
ハト科	カラスバト	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
フクロウ目 (1科1種)			
フクロウ科	アオバズク	なし	絶滅危惧Ⅱ類
ブッポソウ目 (1科1種)			
カワセミ科	アカショウビン	なし	絶滅危惧Ⅱ類
コウノトリ目 (1科2種)			
サギ科	アマサギ	なし	準絶滅危惧
	チュウサギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧

主な希少野生生物（鳥類）

和 名	種 類
 カンムリカイツブリ	県：準絶滅危惧 県内には冬鳥として飛来し、海域や河口、大きなため池や1級河川の中流域などで見られる。生息地は海域の埋立などにより悪化しており、越冬個体数は80年代と比較すると著しく減少している。 福岡湾ではかつて1,000羽を超える群れが越冬していたが、近年は100羽を越える群れはほとんど見られない。 福岡湾、周防灘沿岸域は比較的個体数が多いほか、響灘沿岸、玄界灘沿岸、洞海湾、船越湾、遠賀川下流域、筑後川・矢部川中流～下流域および有明海でも少数の群れが見られる。 (出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2011-)



ツクシガモ

国：絶滅危惧Ⅱ類 県：準絶滅危惧

冬鳥として飛来し、干潟や内湾で生活する。飛来数は年変動が大きい。曾根干潟、和白干潟は本種の国内最大規模の越冬地であるが、いずれも周辺で埋立事業が行なわれており、生息数の増減はこれらの事業が影響している可能性がある。

北九州市曾根干潟および福岡市和白干潟、博多湾アイランドシティ埋立地、柳川市筑後川河口・矢部川河口に飛来する。

(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2011-)



ノスリ

県：準絶滅危惧

県内には冬鳥として渡来し、山間部や丘陵地で見られるが、個体数は多くない。春と秋には渡りの個体も通過する。

生息地である里山や農耕地、草地の環境悪化、餌となるネズミ類などの小動物の減少などが懸念される。

県内全域の丘陵地や山地、島嶼で越冬する。北九州市平尾台では比較的個体数が多い。

(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2011-)



サンショウクイ (写真出展 Wikipedia)

県：絶滅危惧ⅠA類 国：絶滅危惧Ⅱ類

福岡県では1980年代までは繁殖が確認されていたが、近年は繁殖期の確認情報がない。全国的に繁殖場所での確認例は減っており、生息環境の変化が見られない場所でも記録されなくなっていることから、越冬地での森林伐採などが影響しているという説もある。また、餌となる昆虫類の変化が影響を与えている可能性も考えられる。

危機要因：植生変化

種の概要：アジアの極東地域に分布する。日本では本州、四国、九州に夏鳥として渡来し、東南アジアで越冬する。平地から山地の落葉樹林に生息し、樹上で昆虫類を捕食する。巣は地上から数m以上の、大きな木の横枝に作り、外部にウメノキゴケをクモの巣で貼り付ける。群れで渡りをする。

(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2011-)

希少生物リスト（は虫類・両生類）

科 名	種 名（和 名）	環境省	福岡県
は虫類 (なし)			
両生類 (2 目 4 科 7 種)			
有尾目 (2 科 2 種)			
イモリ科	アカハライモリ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
無尾目 (2 科 5 種)			
アカガエル科	ニホンアカガエル	なし	絶滅危惧Ⅱ類
	トノサマガエル	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠＢ類
	ツチガエル	なし	準絶滅危惧
	ヤマアカガエル	なし	絶滅危惧Ⅱ類
ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	なし	絶滅危惧Ⅱ類

主な希少野生生物（は虫類・両生類）

和 名	種 類
 カスミサンショウウオ	国：絶滅危惧Ⅱ類 県絶滅危惧Ⅱ類 主に丘陵地の森林・竹林近くの湿地・水田・溝などで産卵が行なわれ、1995 年以前は丘陵地を中心に広く確認されていた。しかし、圃場整備により排水がよくなって産卵場が乾燥化したり、開発によって産卵場所そのものが消失したりして、現在では産卵が確認できない場所が増えている。特に内陸部よりの地域で激減しており、絶滅が危惧される。 最大全長 13 c m ほどで、黄褐色～暗褐色の体色に多くの多くの個体で尾の上部に黄色の条線がみられる。繁殖期は 1～4 月頃で、1 対の卵のうを水底の落枝や小石等に産みつける。環境が変わらなければ毎年同じ場所で産卵が行なわれる。幼生は 4 ヶ月ほどで変態し、上陸後は周辺の雑木林や竹林に分散し土壌動物を食べて生活する。日本固有種。 (出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2 0 1 4 -)



ニホンアカガエル

県：絶滅危惧Ⅱ類

通常、標高の低い山地、丘陵地が耕地と接する場所に産卵するが、主として産卵場所の悪化、消失により、個体数は減少している。最近では轍跡などの一時的な水溜りに産卵する例が多く、その場所は年ごとに変動し、極めて不安定である。また、一時的な水溜りでは乾燥死する卵塊や幼生がしばしばみられる。安定した産卵場所の多くは、人為的に造成されたビオトープや公園の池である。

赤褐色のスマートなカエルで、体長6cm前後。森林内で生活し、早春に林縁部の溝や湿地に産卵する。卵塊は大型で、幼生は5,6月に変態して上陸する。日本固有種。

(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-)



ニホンヒキガエル（幼生）

県：絶滅危惧Ⅱ類

産卵場所や餌動物の減少により、平地ではほとんどみられなくなった。県内の山林に広く分布するが、個体数は減少傾向にある。山間部でも産卵に適した比較的浅い水域が減少し、ため池で幼生が発育する例が増加しつつある。

地上生活をする大型種で、体長は10cmを越す。通常、体表は乾いており、多数の小隆起が散在する。鼓膜の上に分泌腺の集中した耳腺をもつ。体色は黒味がかかったものから赤褐色まで変異が多い。春に水中に長い紐状の卵塊を生む。日本固有種。

(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-)



ニホンイモリ(アカハライモリ)

国：準絶滅危惧 県：準絶滅危惧

山間部の水田域では本種が多く観察されるが、平地では山際の水田域でも確認できない場所が出てきている。本種の成体は年間を通して水中で生活するが、整備された水田では中干の間は水路も完全に排水されるところが多く、また、放棄された水田は数年後には陸化することから、生息できる水域は年々減少している。

(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-)

希少生物リスト（ほ乳類）

科 名	種 名（和 名）	環境省	福岡県
ほ乳類 (3 目 5 科 5 種)			
クジラ目 (1 科 1 種)			
ネズミイルカ科	スナメリ	なし	準絶滅危惧
ネコ目（食肉目） (2 科 3 種)			
イタチ科	イタチ	なし	準絶滅危惧
イヌ科	キツネ	なし	準絶滅危惧
ネズミ目（げっ歯目） (2 科 2 種)			
ネズミ科	カヤネズミ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
リス科	ムササビ	なし	準絶滅危惧

主な希少野生生物（ほ乳類）

和 名	種 類
 ムササビ	県：準絶滅危惧 日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。頭胴長が約 35cm、尾も同じくらいの長さ。ネコくらい大きさであるが、体重は軽くて、1kg ほどしかない。よく発達した皮膜をひろげてグライダーのように滑空する姿は、座布団にしっぽをつけたようにみえる。県内では中央部から南部の山地に生息している。植物食で果実などを好む。また、夜行性・樹上性で、巣としてよく樹洞を使う。そのため、大きな木が残された山裾の神社などにも住んでいる。一方で、大きな木がある森がなくなるとすめなくなってしまう。 （出典：福岡県レッドデータブック 2011－〈普及版〉）

希少生物リスト（魚介類）

科 名	種 名（和 名）	環境省	福岡県
魚類 (6 目 8 科 18 種)			
コイ目 (2 科 10 種)			
コイ科	アブラボテ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	カゼトゲタナゴ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧ⅠＢ類
	カネヒラ	なし	準絶滅危惧
	ゲンゴロウブナ	絶滅危惧ⅠＢ類	なし
	セボシタビラ	絶滅危惧ⅠＡ類	絶滅危惧ⅠＡ類
	ツチフキ	絶滅危惧ⅠＢ類	準絶滅危惧
	ニッポンバラタナゴ	絶滅危惧ⅠＡ類	絶滅危惧ⅠＢ類
	ヤリタナゴ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
ドジョウ科	ドジョウ	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類
	ヤマトシマドジョウ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
ウナギ目 (1 科 1 種)			
ウナギ科	ニホンウナギ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧ⅠＢ類
カサゴ目 (1 科 1 種)			
カジカ科	ヤマノカミ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧ⅠＢ類
アユ目 (1 科 1 種)			
アユ科	アユ	なし	準絶滅危惧
スズキ目 (1 科 3 種)			
ハゼ科	トビハゼ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	ハゼクチ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	ムツゴロウ	絶滅危惧ⅠＢ類	準絶滅危惧
ダツ目 (2 科 2 種)			
サヨリ科	クルマサヨリ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠＡ類
メダカ科	メダカ（ミナミメダカ）	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧

科 名	種 名 (和 名)	環境省	福岡県
貝類（軟体動物） (10 目 22 科 27 種)			
イシガイ目 (1 科 1 種)			
イシガイ科	マツカサガイ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
カキ目 (2 科 2 種)			
イタボガキ科	スミノエガキ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ハボウキ科	リシケタイラギ	なし	準絶滅危惧
ニオガイ目 (1 科 1 種)			
ニオガイ科	ウミタケ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
フネガイ目 (1 科 1 種)			
フネガイ科	アカガイ	なし	準絶滅危惧
ザルガイ目 (1 科 1 種)			
シジミ科	マンジミ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
マテガイ目 (1 科 1 種)			
ナタマメガイ科	アゲマキ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類
新生腹足目 (7 科 11 種)			
ウミニナ科	ウミニナ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
カワザンショウ科	アズキカワザンショウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
キバウミニナ科	カワアイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	シマヘナタリ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類
	フトヘナタリ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ヘナタリ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
タニシ科	マルタニシ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
テングニシ科	テングニシ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
トゲカワニナ科	タケノコカワニナ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類
ヤマタニシ科	ヤマタニシ	なし	準絶滅危惧
	ヤマヒラマキ (ヤマクルマ)	なし	絶滅危惧ⅠB類

異鰓（いさい）目（6科7種）			
ドロアワモチ科	センベシアワモチ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
	ヤベガワモチ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類
フタマイマイ科	ウミマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
オカミミガイ科	オカミミガイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
キセルガイ科	キュウシュウナミコギセル	なし	準絶滅危惧
モノアラガイ科	モノアラガイ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
ウグイスガイ目（1科1種）			
ハボウキガイ科	リシケタイラギ（タイラギ）	なし	準絶滅危惧
アマオブネ目（1科1種）			
アマオブネ科	ヒロクチカノコ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類

科 名	種 名（和 名）	環境省	福岡県
甲殻類（2目8科11種）			
十脚目（8科11種）			
アリアケガニ科	アリアケガニ	なし	絶滅危惧ⅠB類
オサガニ科	オサガニ	なし	準絶滅危惧
コメツキガニ科	ハラグクレチゴガニ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
スナガニ科	アリアケモドキ	なし	絶滅危惧種Ⅱ類
	シオマネキ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類
	ハクセンシオマネキ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ベンケイガニ科	クシテガニ	なし	準絶滅危惧
	ベンケイガニ	なし	準絶滅危惧
メナシピンノ科	メナシピンノ	なし	準絶滅危惧
モクズガニ科	ハマガニ	なし	準絶滅危惧
剣尾目（1科1種）			
カブトガニ科	カブトガニ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類

科 名	種 名 (和 名)	環境省	福岡県
その他 (2 目 2 科 2 種)			
ツバサゴカイ目 (多毛類) (1 科 1 種)			
ツバサゴカイ科	ツバサゴカイ	なし	絶滅危惧Ⅱ類
サシバゴカイ目 (多毛類) (1 科 2 種)			
ゴカイ科	アリアケカワゴカイ	なし	準絶滅危惧

主な希少野生生物 (魚介類)

和 名	種 類
 ムツゴロウ	国：絶滅危惧ⅠＢ類 県：準絶滅危惧 近年、個体数の回復傾向が示されているため、「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014」ではランクが変更された（「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001」では絶滅危惧Ⅱ類）。埋立や護岸整備、底質の有機汚濁などが生息を脅かす原因として危惧される。 有明海の河口域や前浜干潟のみ分布。体長 15 c m。生息地の底質は泥。産卵期は夏で、産卵室は自ら作成した生息孔の一部に作られる。 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014）
 アズキカワザンショウ	県：絶滅危惧Ⅱ類 国：絶滅危惧Ⅱ類 本種は本県の筑後川河口がタイプ産地である。県内の有明海沿岸河口域に生息し、顕著な減少傾向はみられないが、河川改修などによって生息地の攪乱や縮小が認められる。分布の局限された種であり、大陸との生物地理的繋がりを示す貴重な種である。 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014）



タケノコカワナ

県：絶滅危惧ⅠA類 国：絶滅危惧Ⅱ類

大牟田市隈川では、2000年代初期には生息が確認されていたが、河川改修によって汽水域が淡水化され、近年は確認されていない。県内では絶滅が危惧される状況にある。

殻長60mmに達するが、小型の個体群もある。伊豆半島・響灘～九州南部、奄美大島に分布（日本ベントス学会、2012）。河口汽水域の流れの緩やかな泥底に生息する。別名レベックカワナ。

（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-）



オカミミガイ

県：絶滅危惧Ⅱ類 国：絶滅危惧Ⅱ類

県内では周防灘・博多湾・加布里湾・有明海沿岸の河口域に生息する。河口汽水域の高潮帯に生息するため、河川改修などによって、近年も生息地が開発されることが多い。

殻長30mm、長卵形、やや厚質、茶褐色の厚い殻皮を被り、老成個体では殻皮が剥がれて白色の殻が露出する。三河湾～九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。

（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-）



アリアケガニ

県：絶滅危惧ⅠB類

干潟上部の塩性湿地周辺に生息するため、河岸の埋立、護岸工事の影響を強く受けるほか、浚渫土砂の廃棄などによる生息地破壊でも減少。

ヨシ原周辺やフクドなどの塩性植物群落の内部・周辺の泥地に巣穴を掘って生息。巣穴を覆うように先端の窄まった煙突状構造物を巣穴周辺の泥で作ることがある。歩脚の先端（指節）が赤いことで、近縁種と識別が可能。有明海・八代海には少なくないが、それ以外の地域では希少で、生息地は孤立している。甲幅24mm。

（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-）



シオマネキ

県：絶滅危惧種ⅠB類 国：絶滅危惧Ⅱ類

博多湾（和白干潟・多々良川・今津湾）と玄界灘（津屋崎・花鶴川など）の個体群はほぼ全滅。周防灘の個体群（曾根干潟・築上郡上り松川）も危機的な状態にある。個体数の多い有明海でも、河川護岸改修などにより減少している。

雄は、左右いずれかの鉗脚が巨大化。内湾や河口域の塩性湿地周辺の泥質干潟に深さ最大50cmの巣穴を掘って生息。大潮満潮線付近を分布の中心とする。甲幅35mm。

（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-）